

精神障害の歴史を振り返ってみよう！！

～精神障がい者地域生活支援事業 地域移行研修会～

精神疾患で長期に入院している人が退院して地域で生活するためには、医療側にも地域側にも課題が沢山あります。その根底にあるものは、偏見や差別だろうと思われれます。

3年前の相模原事件は今年から裁判が行われていますが、犯人の「障害は人を不幸にする」と主張は変わらず、やりきれなさや虚しさを覚えます。また、今年起きたカリタス小学校殺傷事件や高齢の親がひきこもりの子供を殺す事件からは、8050問題が問われています。

精神病は、どのように、取り扱われてきたのでしょうか。

精神障害者支援を業とする私たちは、この国の精神病の歴史を振り返り、これからの活動に生かしてゆくことを目的に7月16日研修会を開催しました。

今回の参加対象者を空知圏域にしたところ1日研修にも関わらず、65名が集まりました。

研修内容は午前「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年」という記録映画を鑑賞し、午後は精神疾患の特性と対応について事例を通して学びました。



精神疾患は江戸時代頃までは気の病として、地域で緩やかに付き合われてきたのですが、近代国家になると、1900年に「精神病者監護法」が制定されました。監督責任を家族にし、私宅に監置できる法律です。座敷牢や監護小屋に監置された人は劣悪な環境に置かれていました。

その状況を見た呉秀三は1910年から16年にかけて全国をまわり、その状況を本人や家族から聞き取り写真に収めて記録をしています。映像には、衣類をまとわず畳2畳程度の場所に長年押し込められていたせいで手足が拘縮したり、十分な食事が食べられずやせ細った人の姿が見られました。また、精神疾患になった人を養うため全財産を失って監置をしてきた家族の苦悩が語られていました。この実態を『精神病者私宅監置ノ実況及び其統計的観察』として報告書を作成しました。精神病者は監置するだけで病気の治療はされず、劣悪な環境に置かれていることを明らかにしています。

映画の冒頭、誰もが聞いたことのある「実にこの病をうけたるの不幸の他に、この国に生まれたるの不幸を重ねるがごとし」という言葉が紹介されました。彼は、精神疾患を患った人が、病気の治療を受けられない不幸、そしてこの国に生まれたために、人としての尊厳を保障されなかった不幸を嘆き、100年も前に、国に改善を提言したことに驚いています。

現在もまだ、同じことが起こっています。映画の中で「全ての支援者の中に精神疾患への偏見の芽があります。私たちはこのことを認識し、育てないようにしなければなりません」と言われた岡田名誉教授の言葉の重さをかみしめたいと思います。

午後は、事例を読み解きながら、統合失調症と発達障害の特性を知り、どのように対応したらよいかを考えました。「自分がこの人だったら今の生活をどう思うか？」の講師の問いにグループで話し合いました。なかなか、自分の所属や職種等の殻を破ることは難しく、ともすれば支援者の顔で話してしまいます。困惑と笑いの時間を持つことができました。

当事者に寄り添うことの大変さを感じ、昔があって今があることの重要性を感じた研修でした。

地域活動支援センターサテライト「憩いの場」

焼肉パーティー

春、恒例の焼き肉パーティーは大人気の行事です。桜の花は散っていたけれど、お肉があれば、何のその・・・大盛況でした。ビールも美味しかったですよ！！



5月22日、サテライト駐車場で焼肉パーティーを行いました。肉の焼き加減がジューシーでうまかった。またジンギスカンとうどんが美味しく、腹いっぱい食べました。天気も良く楽しいひと時を過ごしました。(M, T)

ボウリング大会初開催

昔ならしたボウラーも、力が落ちたのか思うようにピンが倒れない！それでも皆さんカー一杯投げていました。次の日は足腰が痛くて大変でした。でも、また行きましょう！



私は数年ぶり（市立デイケア以来）のボウリング大会で、久しぶりに「肩に力」が入りました。私はアベレージよりもケガをしないように2ゲームを完走することだけを目指しましたが、結局は無事完走することができました。次の目標は安定してアベレージ100（2ゲームとも100）を出すことです。ありがとうございました。（たきりゅー）

増毛へ行ってきました！

今年のバス旅行は、増毛を存分に味わえるツアーを企画！午前中はさくらんぼ狩りをし、特に「紅秀峰」がおいしくわたしのお気に入りでした！お昼には海鮮丼を食べ、國稀酒造を見学したり、甘えびを買ったりと、とても幸せな一日でした♪



私はあまりさくらんぼを食べないので、見るだけでいいかなと思っていました。みんながさくらんぼを取って食べている姿を見て、おみやげに持っていこうと、途中で少し取りました。母が喜んで食べてくれたので良かったです。(福原)



増毛を詠んでみました

「萌の地に 夏が来たりて 鳴とぶ」

滝崎竜駿



7/12、サテライトの日帰りバス旅行で、さくらんぼ狩りに行きました。当日は天気にもめぐまれ、昼食は海鮮丼を食べて、とてもおいしかったです。その後、ソフトクリームも食べました。来年のバス旅行があったら、また行きたいです。(佐藤)

「歩こう会」北海道一周を目指す！

今年のサテライトは「歩く」ことに力を入れています！もくもくとウォーキングする日もあれば、ソフトクリームやランチを食べに出かけたりもしています。歩数計をつけ、みんなで歩いた距離をもとに、バーチャル北海道一周にチャレンジ中です。4月下旬に砂川をスタートし、これまで歩いた距離は合計926km、厚岸を過ぎ釧路も目前です。まだまだ頑張ります！みなさんも一緒に歩きますか？

引き締まってきたね！
との声も！

歩くと息切れしていたけど、だんだん息切れはしなくなって、体力もついてきた。運動もおっくうでなくなってきたなあ。ほかの人とおしゃべりしながら続けられているよ。(熊谷)



稚内や知床を通り、
ここまで進みました！

病気や障がいを抱えながら生きる わたしたちからのメッセージ

この数か月の間に、「川崎無差別殺傷事件」「元農林水産省事務次官による長男刺殺事件」「大阪拳銃強奪事件」など痛ましい事件が起きています。これらの事件が報道される中で、容疑者が「ひきこもりだった」ことや「精神障害者保健福祉手帳2級を所持していた」との情報が出てきています。さまざまな報道を受け、今わたしたちが感じていることをお伝えします。



悪い事をするのは良くないと思います。手帳を持っている人が、警察のごやっかいになるのは、自分でもどうか？と、思います。世の中平和であってほしいと思います。(S.O)

同じ精神疾患でも、ここに通う人はそんなことはしない。事件を起こして、あとから病気だと報道して、理由づけているように見える。(K)

今回、この三つの事件について共通して思う事があります。それは問題の焦点が、障がい者である事が問題であるかのように報道されてしまう事です。結果的に事件を起こすのは色々しがらみの中で起こるのに、そこへ調査をしっかりと行わないで、表面上事実だけを報道する今のニュースの信用性に欠ける所があるとつくづく思います。そして、そんな報道で、精神の病の人はこうだからと決めつける偏見に繋がっていくのではないかと思います。(吉井)

今回の3つの事件とも、心のすきまを狙った事件だったと思いました。心のヤミに、「精神科×地域(国)×当事者」の3つの矢がすべての的にしてこそ、引きこもりの問題は解決するはずです。国(厚労省)ではなく、一度、精神科の患者、医師看護師、市町村が同じテーブルで、引きこもりの問題についてじっくり時間をかけて話し合う機会を作るべきだと思います。(たきりゆー)

ひきこもるには理由があります。ひきこもる人も、私と同じようにたくさんのつらい経験をしている人です。そして、私が「もし失敗したら」と考えたのと同じく、彼らも外に出ることで「また失敗する」「つらい思いをする」ことを知っています。外に出ることは、それを決断しなくてはいけないので、たくさんのパワーを使います。

それを周囲の人が「いけない」と責めるのではなく、話をきいてみる。自分たちでやるのが大変であれば、ぼぼろや福祉課、保健所に話を聞いてもらうことが必要ではないかと思いません。相談先やほっとできる場所を見つけることができれば、きっと、事件のような選択で社会に出てしまうことはないと思います。(福原)

自殺はひきょうだと思います。亡くなられたご遺族の方も、悲しい思いをされていると思います。警察も、今後このようなことがないように早め早めの対応をしてほしいです。(Y.S)

ひきこもりや精神障害者保健福祉手帳の所持者による事件が起りましたが、大概の人がサインを出していると思います。その段階で手を打てたら、大事件にまでならないと思います。

暴れたり隣人に理解できない行動をしたり、そういう人が全員犯罪に走るとは思いません。

生きづらさや病識など社会や本人に理解してもらえようような場所が必要だと思います。

ひきこもり、精神病者が犯罪につながることばかりテレビや報道で扱われていますが、決して予備軍ではありません。

誰もが、理解してもらえなかったり孤独だったら、考えが偏ると思います。ある外国では孤独にならないようなシステムがあるそうです。

縦割り社会の日本では難しいと思いつつ、どうしたら事件が起こらないか、話し合う時期にきていると思います。(南部)

ピアサポーター活動を紹介します



今回は…

鈴木さん

心の病になった あなたとわたしの交流会

カフェ「となりのほぽろ」 滝川市立病院で開店！

平成から令和に変わった5月24日、滝川市立病院作業療法室においてカフェ「となりのほぽろ」を開きました。病院と地域を結ぶカフェを開けたらいいなと話合っていたので、実現できてとてもうれしく思いました。カフェのメニューは「ほっとする時間」で、心の病になった人の交流できる場所、とにかく楽しめる場所を目指しています。

この日は、入院されている方や外来通院中の方など、カフェのポスター見てくれた方を含め十数名が来店しました。飲み物や持参した“くるみる”のソフトクリームを食べはじめると、「美味しい！」「冷たい！」との声があがり次第に緊張も溶けて笑顔になりました。

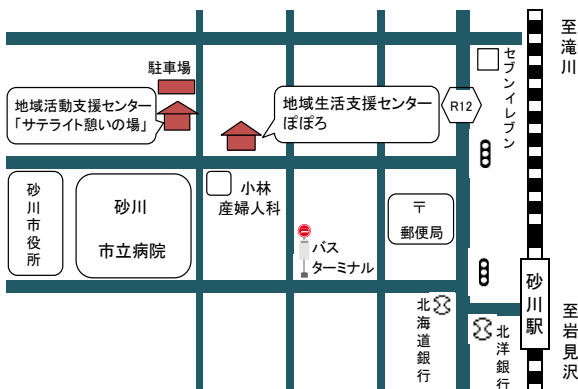
実は、自分の体調はあまりよくありませんでした。でも、カフェにはどうしても行かなければと思い参加しました。会場では空いていたテーブルを見つけて座ると、男性が一人で座っていました。「砂川から来ました、よろしくをお願いします。」と声をかけると、私の声が小さくて聞こえづらかったのか返ってきた言葉は「赤平から？」でした。それから何度か声をかけましたが、返答はなく沈黙が続きました。他のテーブルでの会話が聞こえてくると気になって、「何とか会話をしなきゃ」という思いや焦りが強くなっていきました。「どうしよう…」私は自然と席を立ち、アイスの準備やお茶を入れることだけに集中しました。そして、「ソフトクリーム食べませんか？美味しいですよ」と声をかけ手渡すと、ソフトクリームを食べた男性の顔からうっすらと笑みがこぼれ、表情も明るくなったのが確認できて、何だか私までうれしくなりほっとしました。

今から思うと、どうしてこの時他のメンバーの助けを借りずに自分一人で対処しようとしたのだろうか？困ったときは仲間の力を借りることも大切だと心から思いました。

病院でカフェを開くにあたって、「どんな人が来るのか、話がうまくできるのか？」など多少の不安もありました。しかし、「ゆっくりお茶を飲んでもらえてよかった」「何も話さなくてもいいんだ」と感じられることが大切で、実際にやってみてよかったと思えました。

これからも定期的にカフェ「となりのほぽろ」を続けます。「ほっとする時間」をみなさんも、ぜひ、体験してはいかかですか？

ご来店お待ちしております。



○地域生活支援センターほぽろ

住所：砂川市西3条北4丁目1-3
電話：0125-55-3101（8：45～17：45）

○地域活動支援センター「サテライト憩いの場」

住所：砂川市西4条北4丁目1-20
電話：0125-54-1651（9：30～15：30）